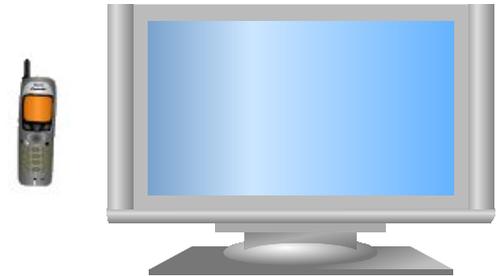


「生きる力」の育成



名古屋市情報教育研究会会長
坂本 憲昭（陽明小）

名古屋市情報教育研究会は、名称が名古屋市視聴覚教育研究会から現在の研究会名に変更して4年目となります。本研究会は、これまで、常に真摯な研究と実績を積み重ね、小中学校における視聴覚教育・情報教育の在り方について多くの成果を収めてきました。そして、新たな時代の要請に応える情報教育の推進を目指し、平成19年度から、研究テーマを「見つける楽しさ、わかる喜び、そしてあふれる感動」とし、その実践に取り組んでいます。



今般、改正教育基本法のもとに義務教育の在り方にかかわる見直しが生発に行われ、改訂学習指導要領の告示や教育振興基本計画の策定など、様々な角度からの教育改革が進められています。

新たな教育の流れの中であって、子どもたちが21世紀を心豊かにたくましく生き抜くためには、美しいものを美しいと感じる感性や人としての温かさなどの「豊かな心」、基礎基本の確実な定着により様々な体験活動と相まって、自ら考え総合的に判断できる「学力」、健康で生き生きと生活する「体力」など、自立した一人の人間として生きられる総合力、すなわち「生きる力」をつけさせることが大切です。

本研究会では「生きる力」の要素となる「豊かな心」と「学力」の育成に重きを置くと同時に、ネット上のいじめ、出会い系サイトなどの問題が発生している現状をふまえ、その解消への取り組みにも努めています。また、情報教育は視聴覚教育の延長線上にあると位置づけ、あらゆる場面で「児童生徒の知的好奇心をゆさぶる、質の高い映像や音声などの教育素材」を活用しています。

以上を踏まえ、次のような教育活動を進めてまいります。

- ① 自らの学習課題や目的に応じて情報を収集し、多様な情報の中から、必要な情報を主体的に「選択」「創造」「編集」「発信」するなど、情報の質を高めながら適切に活用する能力を育てる
- ② 日常生活の中でモラルをきちんと身に付け、その上で、人とのかかわり合いを深めていくような情報モラルを高める教育活動を推進する

平成21年度名古屋市情報教育研究会 研究主題

「見つける楽しさ、わかる喜び、そしてあふれる感動」 —確かな学力と豊かな感性をはぐくむ情報教育—

研究副部長 岡部 章（鳴海小）

「なるほど！」「そうか、わかった！！」

子どもたちは、「なるほど！」「そうか、わかった！！」と納得したときに、とてもうれしそうな顔をします。そんな顔を見ると私たちも幸せな気持ちになります。

本研究会は、カリキュラム研究部と実践研究部が中心となり、「見つける楽しさ、わかる喜び、そしてあふれる感動」という主題に迫る実践研究を進めます。

本年度は、「活用型の学力」に注目して、教科の中で情報を活用することを通して、情報活用の実践力を高め、「確かな学力」の育成に迫ります。

また、知的好奇心をゆさぶる質の高い映像や音声などの教育素材を活用して、「豊かな感性」の育成も目指します。

カリキュラム研究部が実践例計画を、実践研究部が授業実践を行い、これまでに作成した「情報活用能力を育成する実践例集」を充実させていきます。



コンピュータを活用して学習している場面

新しい学習指導要領において

情報教育の目標である「A情報活用の実践力・B情報の科学的な理解・C情報社会に参画する態度」の育成は、各教科における情報活用能力の育成を通じて行われます。

教科の中で情報教育の目標を達成するための実践例づくりを進めます。

情報教育の目標となる三つ

- A情報活用の実践力**: 必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、発信できる能力
- B情報の科学的な理解**: 情報手段の特性の理解や、情報活用を評価・改善する理論や方法の理解
- C情報社会に参画する態度**: 情報モラルの必要性を考え、情報社会の創造に参画しようとする態度



各研究部の活動の様子や情報教育に関する新しい情報は、名古屋市情報教育研究会のホームページでも発信しています。一度、ご覧いただければ幸いです。

アドレスは、<http://www.meijoken.com>

検索サイトで次のようなキーワードで検索してもご覧いただけます。

名情研

検索